



篠小だより

～学ぶ つながる 篠原の子～



令和8年9月30日

10月号

〒222-0022 横浜市港北区篠原東三丁目27番1号

Tel045-401-9532

三浦で学ぶ「生きる力」

…おみやげは おいもだけじゃないんだ… 校長 岩元 カオリ



農園で今年最初のいもほりに夢中の5年生

夏の酷暑に続き、長雨の9月、5年生とともに三浦宿泊体験学習に行ってきました。篠原小ではバスを使って遠出する体験学習や社会科見学・修学旅行などを夏休み明け以降に設定しています。大きな行事に取り組むことによって学年集団としての学びを充実させ「かかわる力」を育むことをねらいとしています。春から進めてきた学級集団づくりを土台とし、より大きな課題にチャレンジしようというわけです。

出発の日の朝は小雨模様でしたが、意欲は十分の5年生を乗せバスは新横浜を出発しました。1時間余りでソレイユの丘に到着、さっそく農園の方の案内で広々とした畑まで歩いてゆき、農業・収穫体験のいもほりです。お弁当の後は隣接の長井漁港で漁船の船長さん・漁師さんのお話を聞き、漁船に乗せてもらったりアジの手開きを体験したりしました。実はあまりのうれしさ・楽しさに話を聞けず、注意を受ける場面もありましたが、それも含めての体験学習です。干潮の日を選んで設定した2日目、観音崎での磯観察のときには雨も小止みになり、日差しが少ないため熱中症の心配もなく、2日間の体験学習の行程をすべて実施することができました。

5年生が幼かった頃、世の中はパンデミックに見舞われていました。今、ようやく誰もが思い思いに旅行に出かけられるようになってきています。ではなぜ、あえて今、学校で宿泊体験学習を行うのでしょうか。答えはいろいろあると思いますが私はこう考えています。

**「友達とともに宿泊することが、
子どもたちをより大きく成長させるから」**

いつもはご家族の愛情に包まれ安心して生活している子どもたち。家に帰ればほっとして、おいしい晩ご飯を食べて元気を蓄え、ぐっすり眠って朝を迎える、それが日常です。でも三浦では、子どもたちは家に帰りません。眠り

につくまで友達と過ごし、目が覚めてもそばにいないのは家族ではありません。「home」ではない場所でどのように過ごすのか。決まった答えはない中で、今まで生きていた年月分の経験からその場その場で子ども自身が答えを出し行動に移していく。そうして家族と離れても、一日を過ごすことができた、という経験をもつことができるのです。

子どもを育てることに、子どもの手をひいて大切に守りはぐくむ面と、少しずつ手を放し、独り立ちを見守る面の両方があります。学校には困っても助け合える友達がいます。ご家族とともに愛情をもって子どもたちに接する教職員がいます。友達と一緒に過ごす、その一晚の思い出が、子どもたち一人ひとりの確かな自信につながることを願っています。



せり場で漁師さんのお話を聞いて



磯観察に向かう